

シリーズ

町長室からの便り

「全国小さくても輝く自治体フォーラム」に参加しました

第11回全国小さくても輝く自治体フォーラムが6月21日から22日まで、長野県の下條村で開催されました。

フォーラムへの参加目的は、小さな自治体が効果的にまちづくりを行う勉強と、開催地の特産物に触れることです。

特産物は、その町村の想いが凝縮されているからです。夜の交流会は、全国から持ち寄った、酒、ワイン、を囲んで一層にぎやかに交流が行われました。

開催地である下條村は、人口4,195人の小さな村ですが、活力ある村を目指し地域づくり交付金事業で村道改良工事や、中学生までの医療費無料化を実施するなど、子育て支援、若者定住に力を入れ、日本経済新聞社の「につけい子育て大賞」を全国の町村で唯一受賞され、村長の伊藤氏自身も「ベストファーザー賞」に選ばれています。

道州制をどう向き合つか

フォーラムの分科会でも、最終日の全体会でも問題になったのが、やはり道州制の問題です。

市町村合併はどうだったのか、その検証で功罪が出揃わない状況の中で、今また地方分権の名のもと、町村ではその役割が担えないと基礎自治体を20万、30万人以上でなければダメかの誘導が始まっています。

地方交付税削減の中でも、住民との協働で進めてきたまちづくりは一体どうなるのか。

政府、自民党、経済界にとって都合の良い道州制は、フォーラムに参加された皆さんが危機感をもっていました。フォーラムに参加された「道州制が見えてきた」の著者である鈴木氏は「道州制は何の目的で進めているのかみえてこず、トヨタの国際戦略の何ものでもない」と断じていました。

一方では、三重大学の児玉教授は「日本の財政破綻に近い状態という危機から打開できるであろう道州制、しかし、この絶対絶命の危機を逆にチャンスとして、より成熟した住民自治の社会を築くことも可能な選択肢である。これができるかどうかは、まさに私たちの意欲と努力にかかっている。道州制のチャンスを生かすために活かしたい。」と述べています。

紙面の関係で、それぞれつまみ食いの情報で申し訳ありませんが、どちらにしても道州制は必ずやってきます。基本自治体としてのあるべき姿を皆さんとしっかり考えていきたいと思います。

朝日のチカラ

～各地区まちづくり協議会の紹介～



白梅西

白梅西まちづくり協議会では、今までに公園の緑化を目的として植樹を行った「みどり豊かで清潔なまちづくり事業」、地区の防犯を目的に団地入り口モニュメントにイルミネーションを取り付けた「防犯用イルミネーション照明取り付け事業」等を行ってまいりました。また、「交通安全推進看板の作成・設置事業」においては、地域の子供たちと一緒に交通危険箇所の抽出を行い、飛び出し注意の看板を自分たちで作成し設置しました。そのことにより、子供とドライバーに交通安全の喚起を行い、住民の相互理解が深まる結果となりました。

今年度においては、これまでの事業をさらに推進し、あらゆる危険箇所を子供たちと一緒に抽出し、そのことに基づいて、マップの作成及び看板設置を行います。また、ゴミステーションの整備等の環境美化を行っていく予定です。



(清掃美化事業)



(危険箇所マップ作り)

事業名 清掃美化事業、危険箇所マップ